

1 取り上げる人権課題「刑を終えて出所した人」

2 取り上げた人権課題の背景と現状

刑を終えて出所した人が社会復帰をするためには、強い更生意欲に加え、家族、職場、地域社会の理解と協力が必要である。しかし、就職や住居に関しての差別や、地域社会からの拒否的な態度などにより、社会復帰が困難な場合がある。こうした差別が起きる要因として、刑を終えて出所した人と接するとき、世間体を気にしたり、憶測や偏見で考えたり、誰かの考えに追従したりしてしまうことが挙げられる。そこで、更生、本人の意欲を認めようと努力して生きている彼らに対して、本人の意欲を認め、「居場所づくり」と「就労支援」を一緒になって行うことが大切である。そこで、過去に過ちを犯してしまった人への偏見を無くし、誰もが住みよい世の中を創るには、その人の努力や、よさに目を向け、正しく行動しようとする態度を育んでいくことが大切であると考えます。

3 児童の実態

【アンケート調査等からみた本学級の実態】

事前のアンケート調査の結果より、本学級の児童は、困っている人がいたら進んで手を差し伸べ、積極的に助けたいと思っていることが明らかになった。

〈分析の観点〉	概ね思う
困っている人がいたら、進んで助けたいと思う。	約90%
昔の失敗をいつまでも、悪く言うのはおかしい。	約90%
逮捕されたことがある人が、近所に住むのは嫌だ。	約90%

しかし、過去の過ちをいつまでも悪く言い、それを理由に助けないのはおかしいと考えている一方で、実際に具体的な状況を想起すると、やはり相手に対して、嫌悪感を抱いたり、偏見をもったりしてしまうと考えていることが明らかになった。これは、「何かされるかもしれない」「一緒にいたら、みんなにどう思われるだろう」「誰かが、あの人は悪い人だからというから」のように、憶測や偏見で相手を見たり、世間体を気にしたり、他者の意見に追従してしまったりする心の弱さがあることが要因であると考えた。

そこで本題材では、刑を終えて出所した人が大変な思いをしていることを共感的に理解するとともに、自分も差別をする人たちと同じ見方や考え方をしていたことに気付けるようにしたい。そして、過去の過ちや周りの人の評価ではなく、その人の努力やよさに目を向けて相手のことを尊重し、適切に対応し、接していこうとする態度を育んでいきたい。

4 指導改善の手立て

- ・「刑を終えて出所した人」を差別することはいけないと考える一方で、実際にそうした人と接するのには抵抗があることを事前のアンケートで把握し、児童に問い返すことで、自分たちも偏った見方・考え方をしていることに気付けるようにする。
- ・児童の交流に保護司の方も加わってもらうことで、児童だけでは気付けない考え方に気付いたり、大切な考え方を教えてもらったりする。

5 事前・本時・事後の指導構想

〈児童の活動と指導・援助〉	〈児童の意識〉
<p>〈事前〉短学活</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護司の方から、保護司の仕事の内容や犯罪を犯すとどうなるのかについて講話を聞く。 ・刑を終えて出所した人に対する意識調査を行う。 ・刑を終えて出所した人が、どのような差別にあっていのかについて紹介する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保護司さんの仕事が分かったよ。 ・刑を終えても、苦しい思いをしているんだ。助けたいけど、もし身近にいたらちよっと嫌だな。 ・悪いことをして刑を受けるって、とっても大変なことなんだなあ。
<p>〈本時〉 学級活動 「みんなが なかよく くらすためには どうすればいいのだろう」</p>	
<p>〈事後〉短学活</p> <ul style="list-style-type: none"> ・構成的グループエンカウンターを行い、他者受容の方法や考え方を体験的に学習する。 ・仲間との関わりの中で、実践策が行えている児童を学級通信等を活用して価値付ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・仲間の頑張りを見付けたよ。こないところがあるんだ。 ・刑を終えた人だけでなく、普段から周りにいる人に対しても、決めつけた見方をしてはいけないな。

6 本時の目標

過去の失敗や他者の考えなどで、相手の人となりを見断してしまうという偏った見方をしていることに気づき、誰もが暮らしやすい居場所をつくり、みんなが安心して生活を送るためには、現在のその人の頑張りを正しく見て、接していこうとする態度を育むことができる。(思考・判断・実践)

7 本時の展開

過程	主な学習活動	見届ける視点(◇)と指導・援助
つかむ5分	<p>1 <第1資料>「刑を終えて出所した人」が、社会復帰をしようとしても、うまくいかずに困った事例について知る。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>生活が苦しくてつい盗みをしてしまった。しかし、悪いことをしてしまったことを反省して、これから頑張ろうと思っても、周りの人たちが助けてくれない。家族からも、「帰ってこないでくれ。」と言われ、住む家もない。家がないと仕事もできないし、仕事ができないとお金も稼げず、生活していけない。このままだと生きていけない。どうしよう…。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これからやり直そうと思っていたのに… ・確かに自分が悪いことをしたけど、反省したのに…。 ・がんばりたいのに、どうして誰も分かってくれないの…。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;"> <p>これからがんばろうとしている人が がんばれる世の中にするには</p> </div> <p>2 どうして、家族や職場は刑を終えて出所した人を受け入れることができなかつたのかについて保護司の方と一緒にグループで考える。</p>	<p>◇「刑を終えて出所した人」が社会復帰をするために、困難を抱えていることをつかんでいるか。(表情・つぶやき・発言内容)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・紙芝居を用いることで、ストーリーや挿絵から、困難さを具体的に理解できるようにする。 ・「この人は、刑を終えてどんな気持ちなんだろう。」と問い返し、自分の罪を反省し、更生して頑張りたいと思う気持ちに共感できるようにする。 <p>◇家族や職場が、刑を終えて出所した人を受け入れない理由を考えているか。(発言内容)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「もし、信じていた家族や友達が裏切ったらどう思う。」と問いかけて、「刑を終えて出所した人」だけでなく、家族や職場の人にも共感できるようにする。 ・保護司の方から、助言をもらいながら、同じ「受け入れられない」という事実でも、様々な偏った見方・考え方があつたことに目を向けることができるようにする。
見いだす20分	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;"> <p style="text-align: center;"><家族></p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分が悪いことをしたんだから、仕方ない。(自己中心性) ・周りの家から何か言われそう。(世間体) ・自分はよくても、他の家族に反対されるから。(追従) </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;"> <p style="text-align: center;"><仕事先></p> <ul style="list-style-type: none"> ・別に、うちの店で働かなくても、いいのに。(自己中心性) ・きっと、他の誰かが助けてくれるよ。(傍観・黙認) ・お金や商品を盗られるかもしれない。(憶測・偏見) </div> </div>	
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>これからがんばろうとしている人を かたよつた見方・考え方で見てしまい うけ入れられない。</p> </div> <p style="text-align: center;">【確かにする場】</p>	
確かにする10分	<p>3 事前のアンケートから、自分たちも「盗みをしたことがある人と一緒に暮らすのは嫌だ。」と思っていることに気づき、自分の偏つた見方・考え方で交流する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・僕も、家族に捕まつたことがある人がいたら、友達に何か言われそうで嫌だなんて思つてしまう。(世間体) ・私も、物を盗んだことがある人は、また同じことをするんじゃないか心配になつて、疑つちゃうと思う。(憶測・偏見) ・僕も、周りの人に「あの人と話すのはやめといたほうがいいよ。」って言われたら、そうしてしまうと思う。(追従) <p>T:「確かに、みんなにもそうした心はあるよね。だからこそ、どんなことを大切にしなければいけないんだろう。」</p> <p>保護司:『悪いことをした人』ではなく、『反省してこれから頑張ろうとしている人』って見ることが大切。」</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;"> <p>「あの人は、ああいう人だ。」と きめつけずに、 その人の今のすがたを きちんと見る。</p> </div>	<p style="text-align: center;">【人権教育の観点】</p> <p>「罪を犯した人」ではなく、「更生して社会復帰を目指している人」と見て、そのための居場所づくりのために、相手のよさや努力を見付け、主体的に行動しようとする態度を育む。(行動力)</p> <p style="text-align: center;"><そのための手立て></p> <ul style="list-style-type: none"> ・3の活動で、事前アンケートから、自分にも偏つた見方・考え方があつたことを見つめ直す。 ・保護司の方から話を聞くことで、偏つた見方・考え方をせずに周りの人と接するためには、どうすればいいのか、考えることができるようにする。
できる10分	<p style="text-align: center;">【学習成立を見届ける場】</p> <p>4 まずは、身近な仲間に対して、どんなことを大切に接していきたいか、実践策を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・係活動で、よく忘れて遊びに行つてしまう仲間でも、「どうせ来ないから」ではなく、頑張つて一緒に仕事をしたときに、「一緒に頑張れたね。」と話したいです。 	<p style="text-align: center;">【評価規準】</p> <p>◇偏見をもって接してはいけなかつたことに気づき、仲間のがんばりを見付け、誰もが暮らしやすい居場所をつくるための実践策をもつている。(発言内容・記述内容)</p>

解 説

1. 人権課題「刑を終えて出所した人の人権」を上げるにあたって

刑を終えて出所した人が、地域社会の一員として円滑な社会生活を営むためには、本人の強い更生意欲と、家族・職場・地域社会などの周囲の人々の理解と協力が必要です。しかし、刑を終えて出所した人に対して、就職や入居に関しての差別や悪意のある噂、地域社会からの拒否的な感情など、根強い偏見や差別があります。

誰もが住みよい世の中を作っていくために、このような差別・偏見をなくし、正しく行動できる態度を育てていくことが大切となります。

2. 本実践の指導上のポイント

本実践を行うにあたって、「過去の過ちをいつまでも悪く言い、それを理由に助けないのはおかしい」と思う一方で、相手に対して嫌悪感を抱いたり、「一緒にいたら、まわりの人から変に思われてしまうのでは」というような意識をもったりしていることに気付くことが大切です。本実践では、どうして出所した人を受け入れることができないのかについてグループで考えています。「出所した人」は、子どもたちにとって身近な存在ではないことが多く、子どもたちだけでは気付かないことがあるので、実際に関わったことのある「保護司の方」にも加わってもらい、助言をしてもらうという支援の工夫をしています。

【確かにする場】において保護司の方から話（「悪いことをした人」ではなく、「反省してこれからがんばる人」と考えることが大切）を聞き、偏見をもって接してはいけないと気付き、相手のよさや努力を見つけ、主体的に行動することで自己啓発力を育てようとしています。

【学習成立を見届ける場】では、身近な仲間に対してどんな接し方をしていきたいか実践策を考え、自己啓発力をより確かなものにするようにしています。